

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 20 年 6 月 19 日 (2008.6.19)

【公開番号】特開 2001-213083 (P2001-213083A)
 【公開日】平成 13 年 8 月 7 日 (2001.8.7)
 【出願番号】特願 2000-27961 (P2000-27961)
 【国際特許分類】

B 4 3 K 1/00 (2006.01)

B 4 3 K 8/02 (2006.01)

【F I】

B 4 3 K 1/00

B 4 3 K 8/02 B

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 4 月 30 日 (2008.4.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液状のインキを内部に有する有底筒状の本体の開口端の内壁面側に弁機構を設けて、前記弁機構を覆うように本体の開口端の外壁面側とホルダーが嵌合すると共に、前記ホルダーの内部には、ペン芯を円筒状の弾性多孔体で保持し、かつペン芯が摺動自在に設けられた筆記具において、弁棒の先端には、断面放射状の内部インキ通路を軸線方向に有するポリアセタール樹脂からなるペン芯を配し、このペン芯は、インキをペン芯内インキ通路に導入する孔をペン芯後端面とペン芯側面とに形成し、前記ペン芯側面の孔は凹状に形成され、先側面が軸線との後方向きの開き角度が鈍角であり、後側面が軸線との前方向きの開き角度が直角もしくは鋭角であることを特徴とする筆記具のペン先。

【請求項 2】 ポリアセタール樹脂からなるペン芯の構造は、インキをペン芯内インキ通路に導入する孔が、後端面から 1 mm 以上離して間隔を持ってペン芯側面に形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の筆記具のペン先。

【請求項 3】 ポリアセタール樹脂からなるペン芯の外径寸法が、2 mm 以上 4 mm 以下であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の筆記具のペン先。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明者は、上記の問題を解決するべく鋭意検討した結果、本発明を案出して前記課題を解決したものであり、次の構成を有する。

本発明は、液状のインキを内部に有する有底筒状の本体の開口端の内壁面側に弁機構を設けて、前記弁機構を覆うように本体の開口端の外壁面側とホルダーが嵌合すると共に、前記ホルダーの内部には、ペン芯を円筒状の弾性多孔体で保持し、かつペン芯が摺動自在に設けられた筆記具において、弁棒の先端には、断面放射状の内部インキ通路を軸線方向に有するポリアセタール樹脂からなるペン芯を配し、このペン芯は、インキをペン芯内インキ通路に導入する孔をペン芯後端面とペン芯側面とに形成し、前記ペン芯側面の孔は凹状に形成され、先側面が軸線との後方向きの開き角度が鈍角であり、後側面が軸線との前

方向きの開き角度が直角もしくは鋭角であることを特徴とする筆記具のペン先である。

本発明において、ポリアセタール樹脂からなるペン芯の構造は、インキをペン芯内インキ通路に導入する孔が、後端面から 1 mm 以上離して間隔を持ってペン芯側面に形成されていることが好適である。

また、本発明において、ポリアセタール樹脂からなるペン芯の外径寸法が、2 mm 以上 4 mm 以下であることが好適である。